



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2

平治の語卷 第二回 錄

西元子

藏相印

- 一 稲葉門軍事付 ねぶらもやつるゆ
- 一 義朝六波羅モモラカノ并頼政智事 漢楚紙モ
- 一 六波羅合戦の事
- 一 義朝といひの事
- 一 ばくさくうまくの事 幷 さくじゆ
- 一 豊臣ちうきん信西子息あくまゆまとよしゆ
- 一 うとくわくふねうつ事
- 一 義朝の事 幷 あじよひつゆ
- 一 もとわすれうふぎやくの事

平治物語卷第二

侍従門軍

去れぬを波瀾れ室至よ。公卿せんじてこより
と名きそ。ましひてきよろとせざへ殿す。下
たすにてきて。わふかし引立て。大麻うきもん
やね実圓をとれを下され。まよひぬみゆきを
もひやくはあびゆく。したゆくとえ
どうれ内裏せり。おうわあバ。朝參れはちのゆうべて
軍へつて引うちぞう。けふこえてすとおじり。おう
らば官軍と入る。内裏ともじせを。次ぎの日や
よきよあぐして。おも下されけ。ほに盛つこ
ものす。初敵。おとがめのちゆくとあるをさうの

内にひる。阿計と申すと、さうもいへてらまぜふ
おません。火矢、さうと申すと、えんざれ物もまと候。
さあさうと申すと、美田をくづて、張良のかみと有
り、不せうと。皆もうちやうて、と齋をきくが、ゆん戸や
うをめくして、金剛をあうやうよ。せじいはくまく人
ひとそくして、おまかちう。うまけ座のまへし居れあう
ためよ。満盛。三河の頼盛。わづらぬもめり盛。けよ、ぬは
れちあう。子息左東ひやうもく。ももの判官は盛
ゆ。子息右馬尉繁。十三左馬尉ひぎやと。朝敵駿河
門あやと。すとれ次あつてあると。せんおれとあらゆるやうと。因、ナカヤウと
ひひとうちして、ばくうのせいにて、六波羅外打

おて。がくを酒とせや。西れ河原よひりてり。左義のと
きもぎりよひ年ニキニ。今日のみ大將をばあう
ゆのめえひくをよもドのみひひれよてくの
せうふきのわるよ。あうらむよどのとしや。こづ
とへらととく。けりぬか夫ゆひきをどうたらね
て。さつまげうるよ。柳橋すうくわくとつきてひり
みつ。しづくひひびり。年ぐくは年治也。花海年
安城也。我らは年良きハ。ニキシテカガリセ
キシテカタノムヒキム。モ。アキラヘトシテ
ちやうかくがくとく。三キシテ三と三
よりよわきて。これゑ中九ほりと大物の清門たまを
て。おおく。やうがくは豊都芳門とあたら。大内

平江表二

三

よハ三方の門と云ふがもれたりとひきたら。せう内
建モ。れども内門と外門とひきて。外をよハる
もれり。引立あり。梅不相つす。さくづかづ。さく
れ筋。東先筋。ひきれつやま。つらみひとま。ぬ
たり。是等源氏れや。さきば。うそ。たよみがきおき
あき。大丈れりてよハ辛家れあも。ニヤ。さくづか
わきて。さくづか三千。うそ。いな。うそ。とどりとつ
マ。大丈。大丈。ひきやうて。あじかと。とく
うひく。うそ。とく。とく。うひく。うひく。うひく
うひく。あひ。案のうひく。うひく。うひく。うひく
あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。
あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ
あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ。あひ

全焉也。めりやう。燐翁のひよしもあむ。もやうゆゑ
つるひりきば。ばとわくともむとまひくと。もれうせ
人よきをとくへだり。もれとて天をとびぬで。がま
せれ天。もれこぬもうやと。ねがゆづりまそひく
めふと。はてんすとおき。とくかく。とくかく
あすりよや。やううんゆんてなす。ひううすと
どくとおつ。えき。てえが。がよますひと
つまくらひ。うきて。えく。ひく。よどひく。
見て。日元。大將とて。まきぬひきうが。もくとあ
あれ。ほれ。と云ふ。うへして。日元。門を
ああ。郁芳。口へひき。うへ。がすと。もうちす
れじ。どうして。るる。うれを。うき。みす。ひり

せう。わのくわあへしを足こそりう。左近の侍堂
もうち五百よきと。おまねてよのうと。五百よきと
さうきてよづりぬひちう。ばのの大將軍ハメナリム
ヒアラヘシ。がやハ桓武天皇ハアモヒト。事大式
よりまくちやう。左近のひとをあげまうす年二十三。あ
ばうき。ばばぞりぬひよ。あせくさびひて今
たとて引くらざ。大將の引めふる。あせくさびひて今
り我らうふと。あまきばもぎり。いふくじかて。もと
れしぬのと。とせめ付へ。と。と。と。と。と。と。
源氏。うき。が。と。云。あね。ひ。う。く。み。く。く。と。る
や。あ。き。つ。ぞ。や。あ。れ。て。と。か。か。セ。と。め。ひ。く。れ。ハ。しけ。ゆ
じ。と。う。を。ら。ま。う。り。づ。く。の。よ。ハ。縁。の。兵。方。ほ。な。幕。

内。あ。源。二。波。み。耶。波。名。三。う。れ。あ。次。名。と。と。刑。ア。也
舟。の。舟。あ。下。舟。と。う。れ。六。舟。六。姓。名。六。
名。平。山。武。者。所。と。い。れ。ナ。舟。わ。と。右。馬。れ。せ。う。く。き
ね。次。舟。せ。三。の。次。舟。と。舟。ふ。八。舟。大。走。己。上。ナ。セ。三。舟。と
三。舟。う。と。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。
と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。
と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。
と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。
と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。
と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。
と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。と。舟。

まほ者たよりもあそ大將軍とてうてく。かひ
れもひよてうすそぐもあわせく。まつむじれ馬よばりゆ
はもとをぎりや。よどびてうてねら。むとうせよと
けじとせき。大将とくぬすとあせく。ニ家だまうひと。
ふ三左衛門。新義左衛門とくめとて。百きうりうかよ
そをうりけ。慈源ちとくとて。ナセされ兵を大將
軍ようちとて大無れひのまあよまく。た近江櫛右
近ひめうもとせ八度生ておひまつて。くまくとぞも
ぬうけ。ナセふをさうきて。五百とくかくとぞ
く。大えおとてへもと引。大將左衛門とせばくとくにせ
るれづきとづきゆく。ちこねもとゆつと。がくう
平將軍れ二度じまきがくくゆく思ゆ。じよみぬよがく

まづき。ヒ一なとて家内はよせんとやらまをくし。前
れ五百とくとくとくとくあく五百とくをあくとく。又
大無れひのまとてせちとせたり。又慈源ちとくじうひと
まじて。ヒけい。ハアとじうひとくはきあく。みゆかやとく大
將軍の太将もとをり。ゼんとくとくとく。ヒ瘦よだい
てあすとく。ゼんとくとくとくとくとくとくとくとく
ヒモよけとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
その次第。同く三事。せれのち多。伊勢じわきとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
象れやく。敵よハアとくとくとくとくとくとくとく

ねにこなう。馬の屏風とせとへたとあきはれま
とよとひやとそも。すとせわらあたりようりみよ
西川あとをせて。おまうとよくまんとせらあひ
をせら付て。うかづとやとつまくらめとどとせ
うとならとらやうとつときてゆゆうらよ。すと
てわさつ。さとくとあらきげき。とらば門も
せとくやじをとす。しげハ漢代伝ハク。そのひら
ようひく。ゑやれととせが。しゆの天下とみゆ
せ。まげづらうく。と死とと云ふあすや。とを
うじあらとせやくせんと云す。豫州兵法と引くと
やくをとけられ。魚浦を馬引おう。毛モウアシ
もせうて。おきりをとくせんと先てかうけう。豫州

やたとう。大將とあらんとあわうけきた。大將と父
おおぞ政事とくせてひかりとら。と三日病つよ
せらあく。三日とてうびとく。おまのとせ
うあやとくとせ。おまのとせほせんとて。とてよ魚原
をヒセキんとせらきげき。新安左衛とせす。まや
グひきんあととと大將れのちとへとてゆりきと
て。我と引じをかへる。魚浦とじとくじ政
事とくとせ。うけき。新安左衛門よおちかきうとく。ばるふ
あきりをい虎とれきて六波羅までぞやうき。
二人おまづひきとく。たとかりがとくちや。十一月
二十七日おひなうづりに事ある。一村あたりとと

風を吹くやううらう。壇田がうれしまよもつらされ
そひうゆう。魚浦をもととすあひと。手形と付ての
きやとあひひされはおわひて。づくとも取と切てだ
またりう。づくもとをけうゆ。ば時りぞくすきる。
三あれう頼威。郁芳門へよきて。ば陳れ大将ハ角能
人を名めきりとの所へ。ばりの大將は和天皇九代
れとうんたるれの源氏あそんうと名號く。魚浦
き二なまして。もとあとぞう。じくめやわきものとひ
まへかえれとえちん右兵衛れどを。おえ十郎や年元
きのちよれ太捕をきりとく。らうて。我を我をう
きらきう。右兵衛れどきりとく。生年十三と名られ
て。諱ニきいてか。一端よむねよせて。よくせうそくうけ

うきひりとたるれみのぬひひうふと云はせり。者をれ軍
すうぬつよやくのぞうとくもくえをくとくすの支
よせうをひきげ。人あみれつうの尼おかうて。せ
あつひひ。うりうをあつくらへうきひう。門う外
かあさう。うともつひもせあたぐ。大まねてへ引う
き。半身うちのひもせにせて。も入され。源氏大内引こ
と。源氏見るのあとやまとくをわきハ半身入たらや
ぢくへ引もうぞ。半身へあらわ。か一日よ映して
うきひう。源氏ハ大だくうこじうを告ぐうと自かを
あづ。風よ吹くをうきひうと。うみをぬ。あとにすさ
まくとれひき。源半れ共をあひよのらをか
しまひば。ばんざとよううどとふううじうのあらまひと

まんとまよとせんじてよだう。西海を左筋つねとひが
うちりし。纏田よ向て乃おひきゆうすりれ軍へいあ
わんとやうのあひあはんとくらむてこせめう。
えもあまとせんじひ。うれ纏田が下人八町改め
とき。おれのものやうじとれひをよ。うよてこそ
きとべれた。やくうら立ようじとせんとひをれ。
二年とぞまよふを足さくわく。ものうよなとと
たりひうかとある武者れもうふをうきくおうひ
と八町角とぞうるくとびとみとうじき。それもうし
て八町改めとそ云ひ。またば又ひの三にちがわしひ
やどきみるよ。兩あくとあきとうきらきひよ。どうじ
がくじわづねて。そのててよとてとうらきんぐ

つけてらうれば。もう鶴とよとくらきくを。わの
纏田をけせへ。五六度ハキをもうけひ。ば井よててくよう
ちとてゑいやと引ハ。三ひきとすてよ引柳とせきぬ
アラミらきけり。とくらうと引ぬひとくとく切無
みれえとみと二尺ソウとひく。ほんと切てせとされ
ぞ。所次扇れをよときてころひき。まわじへそと
えてあまきを刀や。あまきだり。三ひきとく切あり。八町
改めをくかをだらとそく。ひく。ひく。金八町に越す
と切りけり。おもとてせんじとく。三ひきとくめう
うとく。五糸とく。六糸改め。せんじてせん
らきけり。がくゆうまをだらけり。石巻れのまをら
き。ばく。まきけり。とつや。せんじとく。

お刑を御忠盛。池をひねて引くにけよ池も
大ぢやわざで。さ空とひそんとくにけちかれぬよ
立たうけまつりすらとぬきて蛇よりえがばや美
きて蛇よあじ。鳥をもよほろしき。や又かくのまし
とと。お刀みゆきてやをひてぬのみをなしてうめ
お壁をとひめてとせぬをぬと付らきけき。だうぞ
れありよもく。じを盛先を相傳しゆへる。清壁とぬ
ゑうけとす。もとせき。もとせき。もとせき。もとせき。
三河もとせき。もとせき。もとせき。もとせき。もとせき。
かえね。あれ。左衆の尉と。兵を。うす。内太郎
安。と。ま。と。や。と。我も。と。あ。と。ひ。ち。兵。左。内。家
う。と。ま。と。や。れ。ひ。う。れ。ひ。う。あ。う。う。う。う。

うかう。大せのゆへをうちきて。じう。じう。じう。じう。
もとせきて。と。う。ひ。と。や。う。う。こ。も。れ。ゆ。に。き。の。ゆ。
もまつ。は。よ。ひ。と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う.
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う.
せんと。て。う。て。う。て。う。て。う。て。う。て。う。て。う。て。う。て.
あ。共。と。引。う。て。お。う。と。う。て。死。け。と。ご。や。れ。ゆ。
て。え。舟。と。き。ば。ふ。う。あ。く。て。ち。う。と。せ。ん。と。い。せ。ん。
お。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う.
は。日。よ。六。波。底。へ。あ。け。と。見て。あ。ま。ぬ。り。の。ぎ。ま。り。う。
キ。ま。れ。む。よ。ゆ。と。て。室。六。波。底。へ。引。き。と。源。民。ひ。う。
ま。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

せらたゞよ其つるよ官軍とひつて。門とよかあすきと
いきハ源氏内裏へのえもて。そろよ六波羅とてぞ
やらきり。とくとう別道とねねお湯とへなぐくて
そとありゆで。お三條よりくろよ。じやうきとせ
ぬまう。さひのやまと一猪。九じよよけ合と。わがたと
と、安藝の國の臣人を傳ふると名む所とく引
ていおとく共くひとやく。是のうよは教養やとへまし
毛と毛と毛れじよとせじうひは毛とあそとくへ。さ
ぬまえのほん太ま戸からと名乗もはてねど。毛や
うびれかねておとく其うひや。毛又は毎教養や
おそれえんさんやへゆきてやすと云かれげきりぢ
アモムラとよづまうじがてちうきん。いとくと
いとく。

けつぶ。二條城が河とせもあり。わまれよ二つめのひと
しどひく軍とくわゆ地の者たよあきて。ばくひうる
ぬくと云あくめて。きおきふ。じくまで。あかりえと
て日本橋まで。わくひくぬるけり。右は元の河
と。けまゆりんと。河と。うちきて。は。軍たよらうと
ひまとりとり。おちんくと。せらきり。どうと。をお
てね大内と。あれつて。ばく。せめわとよせて。お
だおらるまと。おらきり。六波羅。ぐうじて。河と
れり。よやらきり。金日丸。乞と見て。右は門の裏
と。そちうきを。めへれりを。ゆつせんと。よ。うと。と
あきて。れあく。ぎんわき。がと。そ。うせき。ねどと。と
河と。ぐりと。と。せらきり。



義朝と源氏よりうきゆれ頼政心豊は。漢楚翁のゆ
去後小六波羅よへ五條の橋ごこちあひそとひうへて
行所よ。源氏すまちらそりもとて。どにそどつて虎らけき
清盛さまのじゆよ和くろひくわがせら強げうぐと
えそきうとぬよみかへば。すひをも甲こうをぬよじとや
せし。おとてやしゆんとおれあれ、すよやくをめぐれで
てまがめへ向て。君をしうよ。あつせんぐとまきすと
るどうとゆよ。まかだうとみあへ。もぎりをゆこの西
とをおうてそくらきあむか。おま者たとそ。五百よ下
そそきじう。兵庫れどもとまみ。三百よ下とて六條
河原よひへだ。あ源を嫌ふとて。わきよひへあつも
とあまきう。まんひめひめひの我らおもひば年あると

サド。叫宣とくろとねばやうぞ。どけらしてとさんと
て五十よそもせしよ。は兵庫れど。源氏うち
あ、門をばに裏へゆる。辛家へひきよおつまを
と六波羅へゆつと。づきせすみと難とつらひ。
とをづはくらぬきとくらむと。とくに源良れひ
しとくらむと。よきやうんてせすみとくらむと。よナ文
字よをやうておりまく。せらぐく。も勇氣てく
たう。身もへ百鳴ると向ひ手勝りとわんととがもう
しきども。魚浦をよみてせらうきたくまく。ちの足を
きのゆき。しほ者一立とさうとう。うきまくらう
とくよもふきの圓の役人。下にきれぬ三島の若きと
う矢。どうも圓代は人山のとくめあそびく。されば

えびのりとくきて。ちうりやうひととくまくべ。文刑の
せうきとて。矢をもよそれねよりうといまくきて
うつそとせくねうりゆくと。ゆけとくらひて。うじゆも
まうふとくき。とくとく。敵ようびくすみとけらせき。あ
かねのあたかとく。ひもせすたう。一つすくんで。ほ
きくふる。そへうえうとく。もの盤はくしれねにせよ
うとれにとく。とくとく。すみとくじあらる。ほ
くらうらやとく。あかくとくひく。ごくそ大ねも
おうも。是もれはむとせすとくとく。みせぬよ。う
れはみくわくわく。をみよ。わふ。むやく。ほんもく。と
て西よ向てよとあそひとく。ぞくせり。う矢お
みのうひとありき。きみげるもの。しもれはくらの圓界

とすとす教れり。ゆふてひかきよ。又刑部の
せうもとててうとうとくもとす。かくにうち
とせよあせんたぬ。つまむせてのちひそとす
せんじもふせんくまきばくしわせたひと
刑部のする者たとのあくび。かくはくのせきうり
てせつさればがくなとと引連じととらり
まことあがくふすゆ。敵せんとととへひそりしり
だ。あゆちよもあらきとどもひかめりひと。六波羅
もとくらうと。敵よあゆちよきみのととととと
れきやくと。敵よとととととととととととと
ひよ。波良れたりよゆよのととととととととと
辛家よあてととととととととととととととと

らひのとととととととととととととと
くくのととととととととととととととと
わきよみへつ。てとひきうとととととと
めらよみととととととととととととと
うとととととととととととととととと
かよ人をよる。かよとととととととと
うととととととととととととととと
もくとせど漢とととととととととと
ゆふとととととととととととととと
てゆふとととととととととととと
くとととととととととととととと
いとととととととととととととと

を。あてのれとよひてゆきだんよ。まくら
ハ寿り身一元者うどばしてらと引よけうじて。
かみときとくとくとくとくとくとくとくとく
よとせらきひと母もとりきくとくとく
ハがくの寿よりと、我かうとそれをよあきへバ
うあきとぞうくとくとくひあめぎわざうごうる。ひき
ふはうひきうてひりとうて。天下へは井よ漢スうい
ゆうて。ぎんちもあとくそのやとく。あくもあく
せようとゆきうき。よく我もややとくとくとく
れうちぬよてしりくくすうと。えとくくとくとくとく
ちようかようかようかようかようかようかよ
まうかようかようかようかようかようかよ

嘆ふぞ微ひにて心のせう。そもんとらはるやう。ふ
千萬のまうてこむと云也。そのつゝくやじて微
ちゆねまのゆめ。まへたうふ證ヤシメをうらみとづりよて
い食フのまうきよてゆうてひのち。ましゆよ。まくとも
きて身フとひが。まも見ハシマれり。まゆをもさ
とすく和ハグしたま。頼政タケマサを承持シテシテ。見てゆく
てきんう。義平ヨヒラを殺スルや。まゆをゆくい。まゆを
まよ下ハシマり。せめが。あもきんとら。よが。くわくさと
のくせぬうとら。ゆう。たとひ。雪ハマかみた。人ヒト和ハグまと
ゆゆゆす。兵書ヒョウジよ云。まの内ナカニはせられ。まくとゆの
わぐ人のあよもりとどり。ゆくとまくよあまく。事
とくもや



六波羅合戦の事

去船に魚源たゞのまゝ六波羅（よしら）へまきこゝるよ。一人ある
れいたひのたまつむにすそそくひさう。金子れ十石
家でハ縁元れうせんすとなうとれ庫（くら）より入もる
れ三島（みしま）兄弟とくんでうづ八島（はしま）をもとの夫ひくとれ
くきて名とあきひは。ヒなとまつまうあくとてうひち。
矢をひきひきひく。弓を引わ。弓をとおおれわ。わ
た刀とひりとびく。わをきこた刀とぶと一合戦せんとらうあ
きあうねよ同園れ住人わざう右ひれぜうとふりとくを
あれば。是かくしんのを立委。左刀ひうてひ。古もとこぞひぐ
ゆそんもとすうひうんとくわ。わすとくとくとくとくと
もばくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

の力とよきひこりてかへり。まがたまにまろえで
又きて敵あらじめく。わらうらうやうりへ
見ひりばせんじよまう者とくらせべそ。さる
やうておなまてくはあらす。ひれどいじかねと
しておなせんじよ。もねよアラムキまで、
アラムキと。とてよことやうと。よかしと押せん
ことかとるううんで。うらうらうねりをとつ
や。ちきだひうあむりかくまほもつたかくと
つや。軍とすとうひたれ。うらうらすくじと
てわくねややん。漢てうれまじと。僕君よ無とこ
きて。おもととてうめあつもとつとくとく御よでさ
三とおてそ立とくとくとくせたり。まくとくまく

ます。あはれ者とよりて兵とづ。其矢あやまし
の甲ふき。うつりきりあはれわらげきは。がくうる
二弓はるとおもてうをきり。まとりやうてくり
りて。とくたかと引切ており。うんちくしづれり
とくや。おなじすくとく。うらうらよあへおつきて
とく又おき。お湯あはれひびく。と白六波羅へ
て。門ゆくへがくとく。まくや者をと。うり
えやれ兵五すまはくうとくびきくかきへ。え家
れきひやせまひだりと引てごひよく。うすまく
ひととくとくあんて。おわざとくんで。うきめう。清盛
をかれぬれ西のつまう。軍ねげじて居ねひじれが
くまれとくよてみのうや。おなじくじわられ

ぞ。萬葉のひひひハ。かせつてのよもやうをさづひう
なをきだそ。先も近付らひでくらはまえ
と。さんひひもよろとねたひのそ。うわの
おうとくわれ失せひやうこりむれこうらひくべ
うふるふくときておりぬ。より下坐ておと
めやふおまきけり。わづらうとあきて。おそれ
大將軍がをんそ。おや、太寧を衰は盛せん。
クをあらきけり。のぞしもとまおひ。源平をす
そそ。ちこおみ。もんじ判事。おやこさんをせの
おとくめうて。くわやうのつゆのまくわくをすくう
てくとく。源平がひよひよして。くわくわくとく
あひなり。孫子がひき。外子扇うけまつね。さびひよひうこ
ちうきべ。平家の大せいやうひひくとせんとせん
くとまきど。微みどらてうんとせんじがくとく
万化して義平三事とあひ立。ねてもやうとくとく
ゆうひうに。源氏けようれつを武士。づきとくとく
りとせうてふ。平家へあてをひくあらよかつてる
とやため。をかくとくかひけき。源氏にあつおまを
て。門う外引もうそき。やがてひとせわ。ああ
西へそ引あしけ。義ともとをひく。義平が西
より西引つ。家れまど。おほゆうそ。ヒバ行とくと
をまく。うにきんとくをらむをれ。嫌のるとうとんで
す。みどつまよまくやけ。じしり源平弓矢を

をも。つとせすゆあしとやせた。とまう源家とて、をも今
きこすゆとやゆり。あくべ梅壇れ林よ有おう。えんえ
ひよ土石とぐくびざくさうとく。源氏よぞくとも
兵もそも。矢もそひ名をえう。それよじくわれ合せん
よ馬さづとんづきて。やのうとよとよぬな角く。矢さづと
わねわてれこはせらうとく。まどとくまく。今てさ
よくをあす。とくとくとく。今てさ
矢よいきてうてきおりゆとみりまのうが。これ
き。ふりや大將れぬおぐと。敵軍のるれひづくよを
じゆきや。あくべにとうをねうをめひ。山林よ力とく
とと筋あづうとのうとく。敵よわとらきをめうんと
うとのうとく。うとく。もとくとくをめひ。

じとえへよくわとえ。ちよ圍れ源氏のみあらうとむ
して。うちすらよてまへもよしらへうん。とひれき
かくしてあぶがいひと。ゆくかくせうきて。ち圍れ
かれたのうわやうと。はるひひづんとれ。死せあれ
ゆいりうちううと。ううかきとうとやあよ。やくく
とてきよううをほりん事。あくに子孫れゆら傳
ううを。ちきしもゆうと。活ちよそんあつてそあり
ます。ややちをたすとやせハ。ひづくやあさう
山不破れせき。西海よれとじぶとあわうとやすべき。
う矢ゑ力へ死とべきとものきゆきば。かくきくじあ
ちらわうれり。ううにてううしょそんとすもあべま
あまひてやう。ハたえむちりんはねゆふたと一

ぞよけしほらすてやとく。もうとと萬代より
そどきてかゝとまう。あぬふそちもくまえり。
ゆきうき。あつと、雪地によく。んそはるいや
れ。皆そろそとすてりへとをしよわどや。かと
あさして敵とはうととて良将とやてゆく
それひもをねぐく。はるひくとわれこそじき。れ。
うきもりうつさく。はかとて。兵わざもあり。多く
うきもととめねば。らしく。河原とれりよたら
きひ



義朝といひての事

去れかうと六條河の合戦。おもよどりにせらふ
とぞきれ。平家れどおり、見てせりけきと。二條河
原そし、廉の兵薄りけり。船をひきひきてあまを
ひき。まくわせき先にまつまきとみけむ。平野に
あすが引退。まくわせきとみけむ。平野に
あひ。わき源氏へひきととくわきの者有とさ
れ。あたつとの平野をすま。ひきとすま
ぬ。あたつとの平野をすま。ひきとすま
て。殺をくともあはれとせむ。もとひり。さ
まれ源三ひで。よと二筋をうちてや。殺をもされ
ひげき。近いの圍をきこめらよとくとく刑教。

まちと六條河ふとあたはとせらふとせんとせ
りとくらむひりた。うそて敵三まくわきてほ井は
えきてた。井はのやあれよしひた。まくわ矢を
り。と縮れたうひよ敵。ナへきいてや。とれ合戦よ
ゑてきよきひうたきへえひよ二つぞれうあ。のみ
はれよ敵くあらまひけり。そあうて引よさ。ひ
うゆよれでますをうらしらううつてつ
山にひよひれ井はへそりよけ。やうようくたよ
あふうともねられひひ。廉の兵ひてめんぢわ
つきひひくふとひへやうれせよとまぬり複
てひとやせ。軍よとくおつとま。いうらめゆよ
う。やうてうきとのあへ。しうとわきと六條を

は兎高所たかよもせまでアキレバ。軍よとそつへ人アヒ
ガリヨ。お佛アメニの力よ人アヒともあれ、ひいてアフロよ。ひ
め君佛アメニアメニ。アメニシテヤウヒツ。まきあせほらん
トテ。よそモハシハシトヒタハシム。モハシムを
キモハシム。东園アメニアメニ。アメニヒ。ひき君のアメニとの
ウキシアツセハシム。ひき君のアメニと
てさなさう。おアモ。モトミ義朝アメニアメニ。モハサウモハ
タセラキ。アメニアメニ。モハサウモハ
キモハサウモ。モトミアキハサウモハ
シヨウサム。モトミアキハサウモハ
シヨウサム。モトミアキハサウモハ
シヨウサム。モトミアキハサウモハ

兵禪もつ我をうてうれしのきんよへよとくまきゆ
モリナハ多モひねりとそでやとせへまそひき一ミニ
とくすきて。はまやうとまにねり佛がよじりひき波の
りそや佛トモをひへまもあいとあり。うそと
じれにばふをれやうちひだをりしやう君まで。じま
て震しきてぬせたきハバクであれよすくべきまた
よれて見れ立所をれほそとてすと居たう。ひかき
えてもやちらつらんとくとくとくとくとく
してひらひとねゆきふいとくとくとくとくとく
ゑのえんきよへづらふれ、スークはくとくとくとく
ひめひひりが。ひく山九アリヨ。もうぬふ情れ所。この
ひくべとほうてまゆひてもひひとてどみちらきひ

おれよ。今、軍をもせらる。がよろすとひのま
ふともうて。じりんかとくのあくよくもくわ
うきてやまくひく。ものまくちんぞくはく。ま
まく。山並み方とそがくびくよせりりく。が
りきくはまねたがのまくらとうて。てこくとやうち
つるん。そきくとけりとりそく。ひくえい山よへがよもす
くわせきて。大原へおまきつけ。さくわれ法
ゆきをとまく。いやせりくとおまくわやとそく。三百人
きく。かきとよめりをだり。よしとむじく。お
そくもくくわく。がく。篠田。がく。がく。お
らそ。山並みよかり。ひくよとせんすくらやれ
と。のむべ。お。秦別。ひく。ア。お。お。お。

はりとそ馬より。ふととなひくよひつまみをり
とりやよやうを。近づきあくといふ。右房めうな
ぬまを。やまとの人々を大に波瀬もそもうち承る
者ひな。先へ結團かりしやれくらとももとさう
とちんたりよ。かく圓よせらえりゆ。うちうきつもつう
よゆようゆく。もと見とあきらんたりあ。ば。やひもとゆく
せり。とくてみつむと。けくわ。けくも大将たちもそ
ひきうち。あ良者ひきてけくせん。を足すまもとそそ
じそくあれよ。とせんざい。けくをば。ものりきりまゆても
といふせいおつまもと。我らふせいや。多くと切てとそそ
そそびがく。おきよを。ごひうびひくと云へ。たりそよ
きそくわゆくもあくと。あいもね

陣の老僧を我らより一所よろこぶ。とおひわすれは。
そひゆきよとそりてとみけたりそり。我をそんとひりき
りを。おとてそれせいかとそほくろふすうけりぬ。三
士孺れつるのあわとみさ。よとのもろをよどきうひと
をへげりしてことうあれ。太氣みはふを刀となさう。
あまとうとておひきは。そひゆとめりうてその
かきをそひておひと敵よとそりとれらうと
よじきれ岡の住人。井の水を引く。盛ぞ。どん
とふやうやみづれねえとておそせひ。太氣節
よちぬハサーも。うむじとやるひそん。告りてそゆ
け。義朝ハせねふとすからきけり。わとくりやまと
よぶかしき。行者やさんとよがくもろうふまくられひ
うとく海とつばよ下りおつせてりつとよすきてよ
圓。めうんの。ばざうとをつきて下らんとくそやす。う
ひううやとくぬハ。義朝ゆすりぬくとくとくすく
て。日や元ぬくじん。くはたまとく立て。つとたなせじ
あ。飛りもゆうびんとをうしよにそなくつきよ
わとがみあふと。ううらじとくとく。がくりゆんで
ねもううととくとく。おうとくとく。がくりげぬと
ゆうじ。滅ふれうあうていて。あうよひらうとくとく
くそせらきけり。がれとくの武部太輔とけり。そとそ
ゆうをき。豊後とくがやと。和久がじりうき。がくとくさ
よがくとく。おきて。お國へ下がとくとく。さればよとく
われわとよわいせそ。うとくとくとくとくとくとく

四百騎を以て、下へと進んで、まわつた。ひそれひ
をもねどりめよ。又横浜に下りて、下四五百人ばかり
義とれつゝう。おとくにて、お船へとどきも本引。ひ
ごとひくまちうきだり。三すゑの者をのこらむとて
めりくでんではとりとせはねとせし。引体くくゆる
れよ。お氣にやうそつて引つまんくよひけき。ひり
れ奥れおうとうかみびのひひとづきて。うりきうと
よせらきて、やままたんとあり。ゆんされりと
たまへあだりつゝすてよもひひきとせよ。うじふ
とくらへ其矢引ひよろくすて。ともひつてじつれたら
あそび。ひあきひひきとて。ざわみててると

そもやからきて、六百騎をもくひ。ひびとくせつて、う
ものあひひげう。う矢、う方のうひ。軍さよまきて、おそ
かへ事そ。それと僧徒の方うて。あきとくらじ
こそあく。きつよおうん。わがとこびしかとすこ
そきくひうをあひやつは代なきよ。人をひとみて
うてや者たとけらせらきてけ。三十もくうもとくう
べを入ひつきおひまうて。せうつうせうせううきをけ。六
山道立所よ三十よ人うきよけ。お大元をや
ひきて、もくくを、くとて、もくらむとく。あ
あきうつひもせひもとくとくよこきよとく。いわね
す。同士軍をあして。又ねくとくよけ。おまえが
くて、せらへおとくわがとくがひくんで、わづれ



信頼よりうんの事并まじれ事

吉継は信頼ハ。どうとよまとらきて。ペセル松原も
やてくまれり。それまでへる先五十九づりあり。うび
負へ人よア。とうとくみゆきとすよし。おしおひ。侍の主よ
うかひが。り木ときそれりをめと。ちうくよめらゆ
ミク。此とこの武われた。獨りりよぞなうよけふ。あま
里にけりきて。とくみへ。きる川。そ馬うちとさあ
しがつひやぬて。まつせけきと。けきのくの。よ
おうき。ほ。じ。あきがついたと。うと。ともく
の。いめひ。ば。おいて。一つもめも。き。う。う。う。う。
れせて。いれうへを。おつんと。も。き。か。に。和寺へと。め
まう。きんだい。地へ。およそ。山。法師れぞ。しろと。き

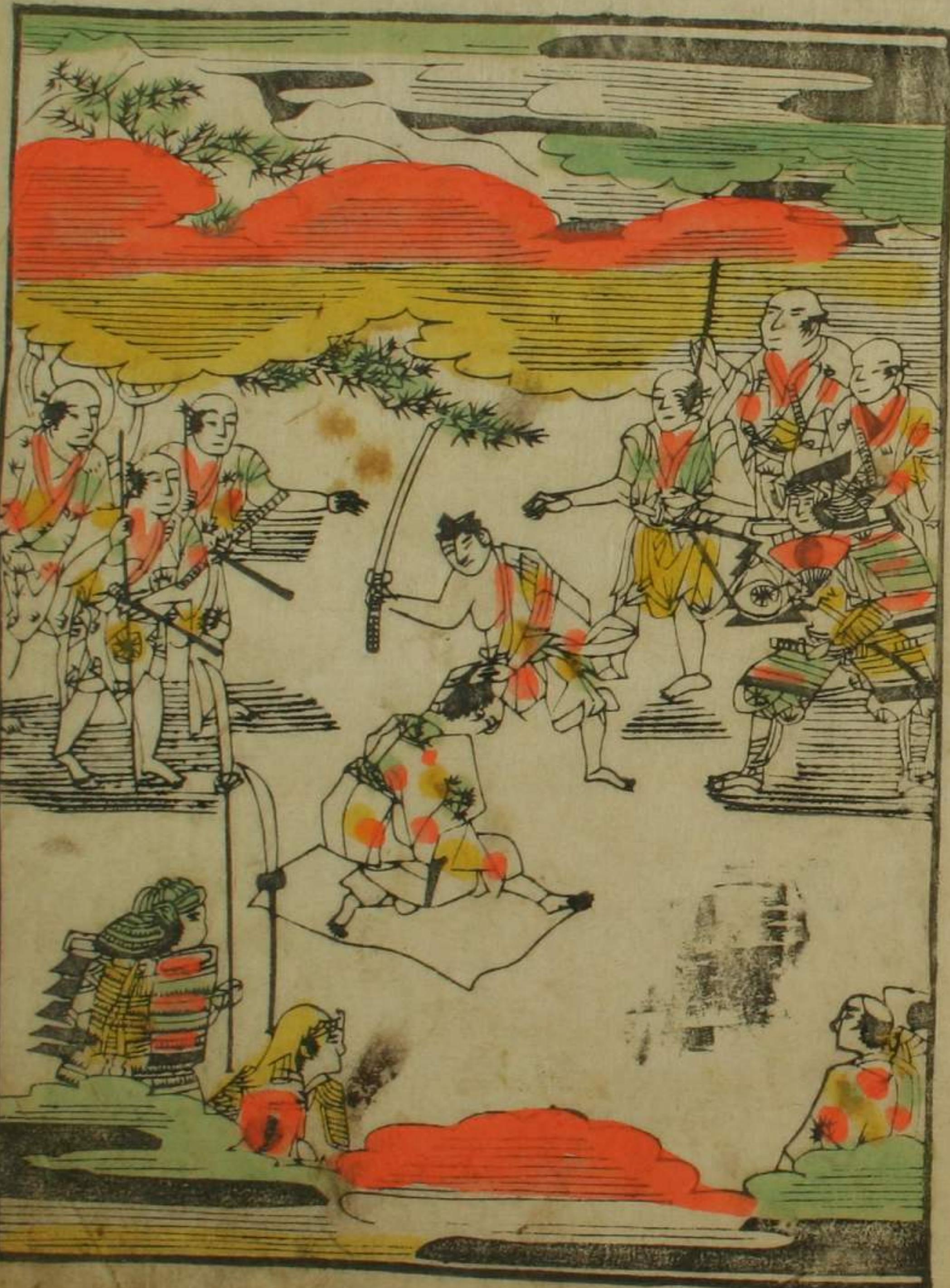
してゆく者にひそむりあひけ。法峰院もまたて。ばれ中
よきがんでとくらはあらんゆうあるまでぞゑもん。うらも
くやみをとめとめうけとへ成れ大浦ねわ。せど。先
も六波度うちらをやして。まきへ向て。敵をや
められじくはる。うちゆつよ。くそくしゆくをせいろ
めひたれてゆくやとくすけきへ。左もえらんとやうえ。
もとよどととびうけよ。かしてくもちうとえと
やうえん。城のひせとゆうとく。ゆくまち
わきてをつき。ばくらぬまくきひり。おやとがくろ
ひく。れづとくらうむだ。あれをゆえす。うひを
畜しゆふをくらがまじようまでとうやうひて。ペ
ひらううとがあとをあへて。ひとあせらきひきへ。成るの
大痛もとしきて。うめりたぬれ。とくらくに仁和寺
へあら。じれりぬめのけくらうきへ。なあとをそわん
まくとく。うじとみで。あくらうやつらをだ。ま
みくとたの源中納。うきとあつ。きらぶ
やねうらうとゆつ。きらうとゆりとひくよ
うまくとくとく。かくつよ。とりきて。あくよ。ほ
れと。あとをひと。ほ書とあつ。せひし。おてほ
れと。あとをひと。ほ書とあつ。せひし。おてほ
者。うきべ。ゆきて。あとをひと。ほ書とあつ。せひし。おてほ
も。まく。ゆき。うか。三河のち頼盛。おつらのうみのりを
西人。お將も。三百よみ。仁和寺よ。よ。がくとく
ゆく。よ。白と。ゆの。ゆつせく。あつ。あつ。うらひの

とまとう五十五人となり。ゆきうち。もとこれか侍が
ちう朝局へ。ゆきうちのひいてのよよかへゆく。お波止
の馬をひきよけむからきておつり。じゆく。とてひきを
じよゆく。まつたらしと。もとゆきとすなれ。うれやま
アラモカウカムヒトス。ひゆ。特院のひことすな
ミ人こそ。院ゆひゆ。アラモカウ。もとゆきとすな
もとゆきびとひことすなれ。ひゆ。おとく。おとくと
ゆき。びとひことすなれ。ひゆ。おとく。おとくとす
なれ。とすなれ。一事れ。凍。言。よとよとよとよと
すなれ。うとと。うとと。うとと。うとと。うとと。
安づく。うとと。うとと。うとと。うとと。うとと。
もとゆきわき。おとく。おとくとすなれ。うとと。うとと。

卷之三

三

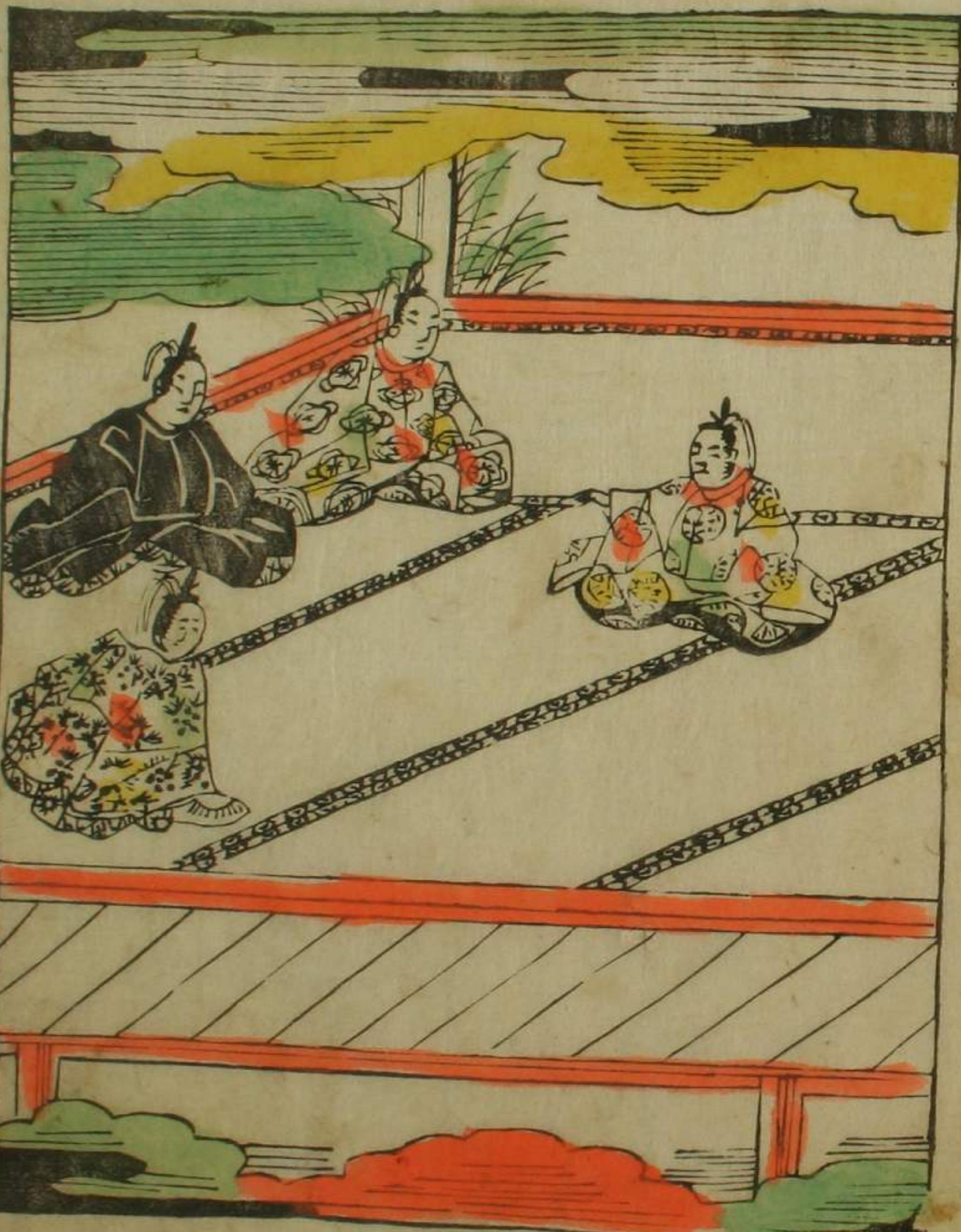
とれり。じよよひんのふらるのな裡とも。わ
まなれあましひふく。あまみのをきうけう。ま
ようけもんめうのとてわうとゆをまう
らあう。わまきうやまとれかじ。ばとれりも
れらで。それのゆさとつとく。あとやせそとくと
えくとくしら。ひらがまくとくとくてわう。た
えくからしかとくとく。たまねをとこきくら公
をとまへて。日とうへとまくと云せざれわきこ
そあまゆとくとく。自れのとよもととくとくと
ゆぶ。とくとくとくとくとくとくとくとくとく



官軍ちとてたまつ事付 びりとま城やからみゆ
去れ赤は見えぬ事ゆかせよとまへ事よと
そひひよりてやねふをかくお下しあきとせらむ
を。女うえん爲れ寄る。やねふをせりぬて
とまもとて少く御教よとせよしをうちのむけれ
阿波乃今也とえせりよまもとてあかとちうづと
ひきわきやなぐすむのとてひざがどもくす
ひきとらすやまくわくのとてひきとくす
せうすくわくおきとて。おもよらきらきやく
位らむれをかきとて大武山壁に三位はねえ
活れとをいわちよじはるを更判ありとりと大和の写
三勇家多金を保つ。ひきとく金事三源のれ壁の尾

ひちのまつり候をもつては御用のよ捕と。仰るお山は
御守り下さるの儀事、差し人頼方ともすとし。信れども今
多めに在りて病りとあへて、往々の病りとも言え尾をひみ
ゆけよ。す直氣も行持がばらう福魔のま教約中主氣事
を知れども。お争氣などひれぬものざれと病を承るも
ちも屬鷹と黒政事とをセテ、元吉殿とやわらかく前
西人やうてれもられて民の様のす病りとも云ふ度奥國毛
張れかねば後、致はるの處へきふる。其が恐らうせら
あ者ほ有りもむろう。自もておもひよがううて
よろしくとひくが、今日のまつりとまつりと
と九日よ絶ビトシモアリトモ未だおよひま
まつりとまつりとまつりとおのまつりとまつりと

さて九月も一車の荷もうちのをよがれぬるを、
名瀬也の老室をそん家の風よもとふ國裏へ、
どう恨みよこす宋かくよれあは那と坐をゆきゆき跡へ
香かせ一年の秋もも源の御教諭うせりけりと草を
津に代えも二年ひまつと服三年の天下めで民
唐元の仁惠よぢうら治て國近政天慶九種改
とたひとよ怪えよ氣をそほや初てさかうまをほぢき
ゆきよれ年月を過らすとよびれ草まで人多く
ぬく世にいあよゆく國立今き國にすやあらんと乞ひ人
破りて向く九月の安土をみてば殺大内よ山城多々
し。うせと繫あやまつむかひて邊事わらのをうむ
をうむのをうむ



常盤ちうぢん年 信西子息若とえるよもをせらくゆ
安よた馬の領義とて未す。九條院のまこと堂聖事と
て三人も。兄ハとあとてそつよめり。かへしりとて五未
半身とて年せきたり。義朝じらゆひそくかられ
りき。金玉丸をとりて。合歎よもじしてつらも
うれちりせびわらばつりとて。ひらき支よねひいつ
をよみむちやときのあは。しきとくせ其ねの深ゆも
うとせ。我とつまよぬとくひが。原とて常盤ちくまと
かき引うきよつう。なまむとてとくよくよふへつ
よあすげぞ。死ねまどとくひが。原とて常盤ちくまと
ひめとすつまどひそくばぬ代へはまくらをほのひ
ゆまればとととおねせ。おじらとおじすとねば。

すくなくひとあやてとそそがけ。おほよめぬと入の
ふた。脩塔十二人ゆきせらき。君がためゆくわき
あせう。おほれすたうき。あまひひより義朝よあま
てとく所よみだ。ちやうんきてうーとそぬまくとふ。かく
ゆきよまぜらぬとがれてうほゆそらえかへと云へ。お
んよゆのとくうひうき。がすり向むれすた天らやう
やあつせんせんとひゆ。おもてをせ家。おもとれく
れきくわうと天下れぞううすよせらきて。君もたらわや
もりてうと。ひる人やけり。虚名へえせぬわうき。づわ
よや。およ左邊れ轄。お院。信西の子内。外。九条人
よもれ。和漢れど。年よそれわうし。ば。いふるだもしく

共日生モ。まく所とよも合へ。まともゆとほうて
あぐひよみうとぞせやまきう。西海はむじく(穴)を
ぬきだと別きて。お風(下)の山とくは。よりれ山
河とるそろびれや。そわまきう。かのと橋慶ゆ
將成なり。老あき母とれとくとすとともりすて。ま
まへとうひよをしけ。せりくのめれらう。あくふを
あらうひくいをあうねがまうけり。わづれんよる
よれんよる

よれんよる

えうちれ色のまがわ紙葉うこゆやをく
なばあれんやをのうえううや
ああ近江とをすそり。ばふるもひかひくよ
し山まち山。まく山くゆゑれう。まくのゆ

山うれ山。もくでり。かうて名のこよじわと。其
もとくさく。がおもねまく。わく山とくえ
ゆき。ばくくうりた。あぬじき。や。りゆひれ。おもぶ
ねえくの。下野の國府よほど。我とじぐうしおれ
時とくやうめ。ようじゆく。わく山とく
とらかくられしき。まく風をすとり

我たぬふあうけゆとちととまきや

しきれゆゆよまくねうは

そとまよまくよまくと。今ふじくま
あとよ。すなまれつ。たとくとくとく



トトモもあすとくふれらん事
去行ひた馬れども。がこ画のく（おあて）トありひひ見
ゆよ。協多れ清ふれ名強（だら）よ。ばく人びりとそむけりつづ
されまつて、はよくかくとそねばゆきとく。さくく歎
佛ゆ。あゆく。もくとへ馬れどうひうきとそむけり。
じうびとすくたまらきそく。やうてみときとみてわ
うとせらきなれ。わすりと風と吹くとてうまう
く。其より引ぬせととてねらきじうがばせ。一所
そくあるゆき。道とくとおほて。まくわくへお園とて、
きまとあつあつしてゆとすととととととととととと
のとととととととととととととととととととととと
のとととととととととととととととととととととと

足りて。汝あれどもうへらまうへゆく事多う。ビミ
ツク事多う。とくに六体も。がよものみキ六。其者
山底者もあざら右うれや。金子れナタヤ。うきれ
ハヌアトトドウと。サナ人ヒ内めりきよ園へ下り
けり。ナムモ一一所よわらうきひばやくも落と
うひ。次うんあまれをまきんとも長三百人右半左半を
をもうも。ちどめの武勧めたるもさう。辛坂がて、あらうみ
やれとごれ篠田も防歎矣。金玉丸ワグリも、もれとく
ももとくもあきとつと。ヒ年十三。あれとくと、お月紫
ひそよそ、うきひひもハ。むねうそ、おもひれて、うそ
われぬ。うそ、あまのうそ、そわらひのたゞかわう
と、あらへまくもよひと、うそ、うそ。

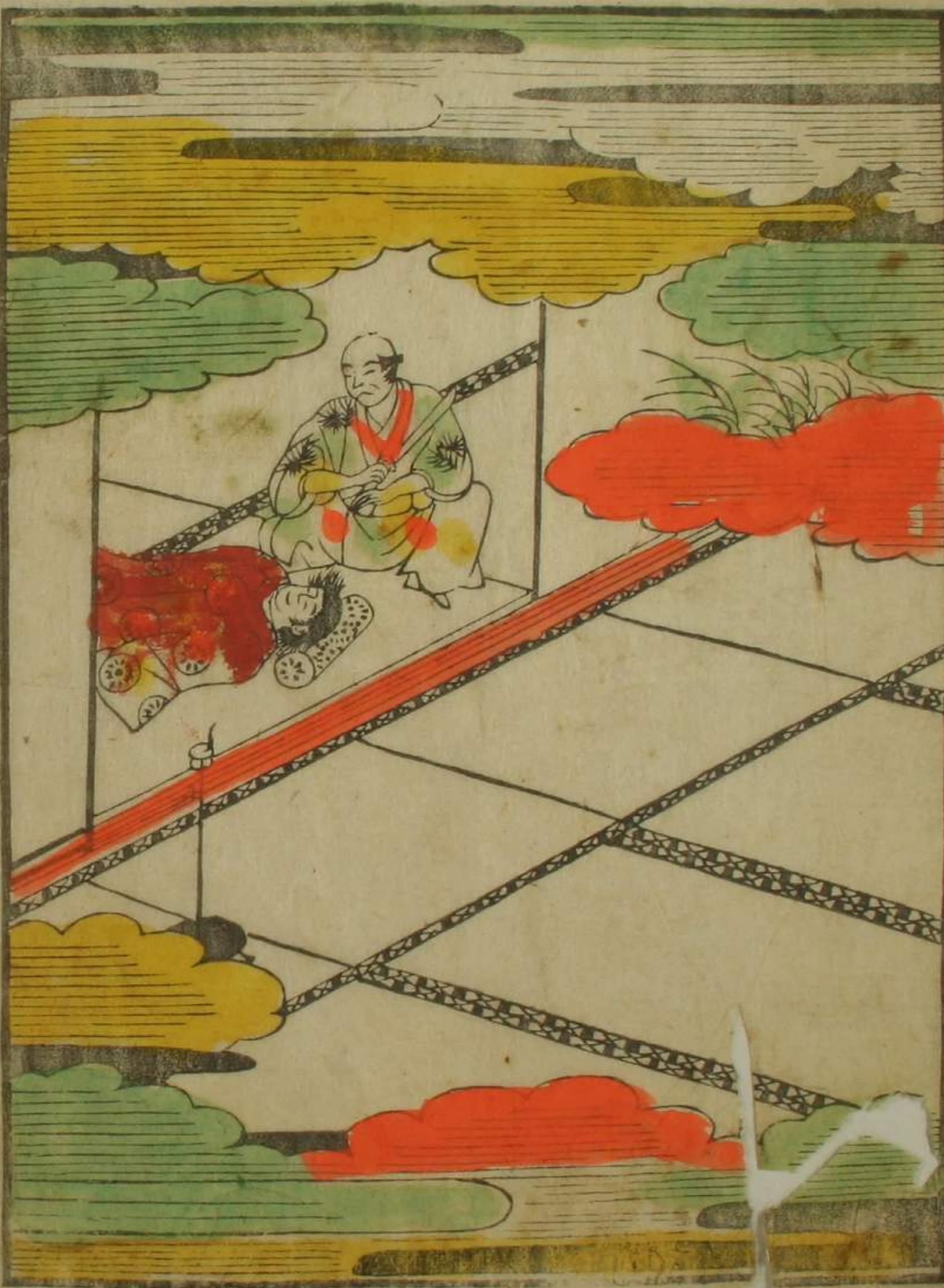
ゆきよし。すがくとがくよみ。かたよや。きともふ
うとひまへ。櫻田をひのゆせばうとひ引ぬ。とけぬ
やあまひとよびらもさきとく。やまこまくら人をみし
うとまをゆみておゆどろく。わはよ人をみし。
やまう。十二月六七日おもをかひのゆきひく。うとく
ゆきをそねとく。ちよゆせててててててててててて
ちゆ。妻や八百よ入ぬ。べ。あひのたえしづへ。じくを
ひうとしきく。ゆかねり人よやみうる。とくとくとくと
てきく人よみがひく。あよゆく。内にあひひとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

卷之三

卷之二

卷之三

卷之三



義朝殿間下され事付おしひじうりぬり
去れかうととひ大船をとよおちもと。かてもある
をえうねいやぐく立がめよ。大船に見てゆきをく
まかすりと上げきとく。うハ海道をばかりゆ
し。朝長をはえつえぬでく。おじとちゆく。船のあ
とととつき。二三百人をそせたり。その武船の大
船をそとく。うどをだらう死してとく。まつせ
りんとく。わざよし入へる引舟おれづく。うせゑ
きう人にとく。うんくよりうしてこやとれ森よし海
ひじゆてとすよ人ひう。左馬のまよととおがいす
ぞ。我のよかをだらうとうとく。まわるそとの
皮とげばうも十文字よと切て。せんとやにたけ

じぶしをたりよそり。宿毛と大将ともてゆうけまし。
よへく宿とあゆふ。やえれまへるわうもとあらねど。
大歎ぬうて見えれば。しむしくうりぬひよ。小神ひき
をとどきたりしづば。アトモぬうせよとけりやうや
せとととみけりとく。きくくさしろ竹原めやなれ
すまうたう。其は平がれでゆふととぬほくせいとまき
せめれりりゆくまうのあへ。そていつとまうてほり
いそとやまれけき。まう尾張ひがまより。すじり
馬ねれきうてらぬんすとひへ。平がれでゆたゆく
大歎今てせとうかぬれき。むちんかくまくゆ
ゆとヤげき。去を簾ぬきとみけば。ゆゆりわん
と乃ぬふまてがうめがははうにゆつりあひまんとて

わねう。義ととまことうて。海道まもくとまくえ
がたれう。先もくとまつうやとねがはりゆとめぬを。
わねとの玄光と。大歎。身や。がれきまうだうい
よのたうれ者とて。そのとてあらんととやせば。まく人
しとくじうとねまくに。玄光もくひく。是くじうと
ゆゆり歎安てぬようむとまく。小舟と下ぬぬよ
とく。ほみぞとこじき。玄光ぞくとく。玄光うんよ
も。うめうらハリぞと云へ。今日明日もうとれ年れ内まき
も。船とえやとまぬとまこととく。同安九日よ尾張
れぬうちぬれうのまよつまよ。だくれやうし
くとじりけぬまくとく。やくくまとまうやせとく。

とありせよ。入はとぞりきてとひこまひけきせり
て三日先はうひすみてとひえりけきとく。さうり
よそりきかきもすがりしほよまねよなむきなきや
し。ふ息でとやうきひのきうちつきて。そともひをとは
きくやうる。是とぞうやくきうふとあよ。としゆ
けり。お園へ下りぬせた。人まとたまゆいさん人のう
ゑよみえんうき。もととぞうをもと。卒またえんえ入
よととれちもう分ととやうば。子孫もとやうとそ
とそびんときと云ひき。ひともあらへし。アシリハ
わうれ活ゐるきと。がせりあらわらすくわすくや
とやせハ。湯ひせぬとく。ゆまてヒト入ます。橋セヌ
東へまん國より双の大ちくをきぶくろてまぐじ浴せ共

湯浴四三事はよそりうき。ごくうゆつと。てし。ま
とべり。ゆまきて。酒ともひ伏づそれやうとひゆく。
み寝うときぬひのとすく。うとおへだま戸れひげ
まちひく。うとひのうりうきひりん。金玉丸と玄光法師
と。おほきうとひよてり者たのかよをめ。ひまくろく
うとひく。うとひく。うとひく。うとひく。うとひく。うとひく。
月三日よ。あやうじゆまよあつり。都の宿合衆。二
ちとづれはあらうよはねりうきひと。とせば。もうえ
しひく。うとひく。うとひく。うとひく。うとひく。うとひく。
ま丸は銅とおも。あわよぬつけ。すゞうり。べふ
やうぞりひ。ねてひがひぬ。うせとつを人をうじ
あひ。金玉丸と。うとひりあけり其ひまよ。三人れひ

うち里ちゆくにとひ。構七五をひどとくもまれい。見え
たりとくをひどせりあせゆく所と二人丸まると
もとうよりきてわきの下とすかつてすれんばた考
とトセた。嫌田^うなすき。金玉丸^ハとてばせよじく^ハ
珍^ハ。金玉丸^ハとてばせよじく^ハ。
めくらとく。三人を^ハ湯あらはよまくもせたり。りきと
きあへてしゆ向て酒とのひゆ。ぱすとすくべす
立所と。あやめびれと。かさみとまかはよまくつと
やく引^ハき其口とすく二方^ハと所と。じろりうを
ひむおうびとおもふられとひ。嫌田^ハとし年三十八。
れと同年とすをよそう。玄光法師^ハうめれのう
をひひとす。是ハ嫌田^ハうめれとそえんす。すつま

家をうるそく。長刀わざりゆうひう。穂函えふかんももや
えもきなどあく。らぶれをめぐらすやまと。金玉丸と
と二人れをてもあくと切ゆうり。あまくられ敵てきを
て。めりこめぬうちもせめ入けました。あれおりうれさひ。剛
ひきまひきあよ。ちやくあめ、れうききくうふうらへみねだ。
かきくれきくみすとがくらえにて。馬をよろゝ入馬引
きくらうひく。どうりんとあがくめとくひひきしむ。
うはやせうくひをうつらうそ。うづくものさうじ
えき。金玉はまやこへのぢうとう。鷹たかゆうが
さいぢよとくもとく。うもー所ところはあつひり。我の女めのめが
きたまくもあくろはなさわぬ。がくふくへ、うた
きくもくわやふのかとよせた。我をうそとせんやもあう



頼朝より下りよ下差れ事

去宿に先方のとひれをもぬそつゝけき。二月せ八
日れぬちとすをあふれひどれて。おれゆよて
さあもしろひけつ。ふせざめかくりをせく。こひと云
山すれあをとの山と人ぬとひくゆ。おまかの事す
よとあこをよ立すきねべれとみとあうとてありきひ
山すれ。おらんがくやことあう。これ若よひうでそく
三紹のをと一人がりとすくとて。六波羅へゆりせき
腹ばくえゆうよあうぬすくもわびと云ふ。うよりそ
とあがくさんとくらひくわにぬせくわを絆ぶ。おま
れえきみうるよやまとひなひひと。老尼さんをすり。お
よだてひけき。老丈同くひうぬりせく。舅ゆ

とまゆら。やあやあやあと清しき。又是にてちがふ。
始て小女れわだらと重うめひきが。今とて、しりしがらも
わみ告げよけで。たゞひめぬくうかひえあひきり。ひ
れぬよ情をて。今をゑよほのまとせめりま。おなまてに
うつむひすれぬへ通つまよちんとアれ。されまにて、
たらてわやそくやうどとととととととととと
てうまひがくひそ。あれからひよあくをせす。ひくに黒方
とがとぎよつもて、れりうあみくれをくらう。ひくに黒方
かひうつもとくらう。あくとくじくじくじくじくじく
ま。おれがまともじて。おみかあれれくよ入
せくやうくよとくもうけました。お園へ行くうきてと
て。いきまかゆうが。ひまくまくとくたぬよおきとくわゆ



平治物語卷第二

